

「蝦夷館を巡るツアー」 2021.5.9

【日程】9：30 六ヶ所村立南小学校の駐車場に集合→9：45 安倍館跡を見学（空堀跡、伝承について）→10：20 中志蝦夷館跡を見学→11：00 内沼蝦夷館跡を実地踏査（空堀、堀切、横堀、埋まりきらない多数の住居跡）12：30 現地解散



上北郡内には古城が95存在し、多いところは、旧十和田市が28、旧七戸町が15、旧十和田湖町が17、六ヶ所村の7か城である。これは、古くは奈良時代・平安時代以前から生活拠点として、中世から近世にかけては、南部氏の支配の戦略上の極めて重要な地域であったことがわかる。

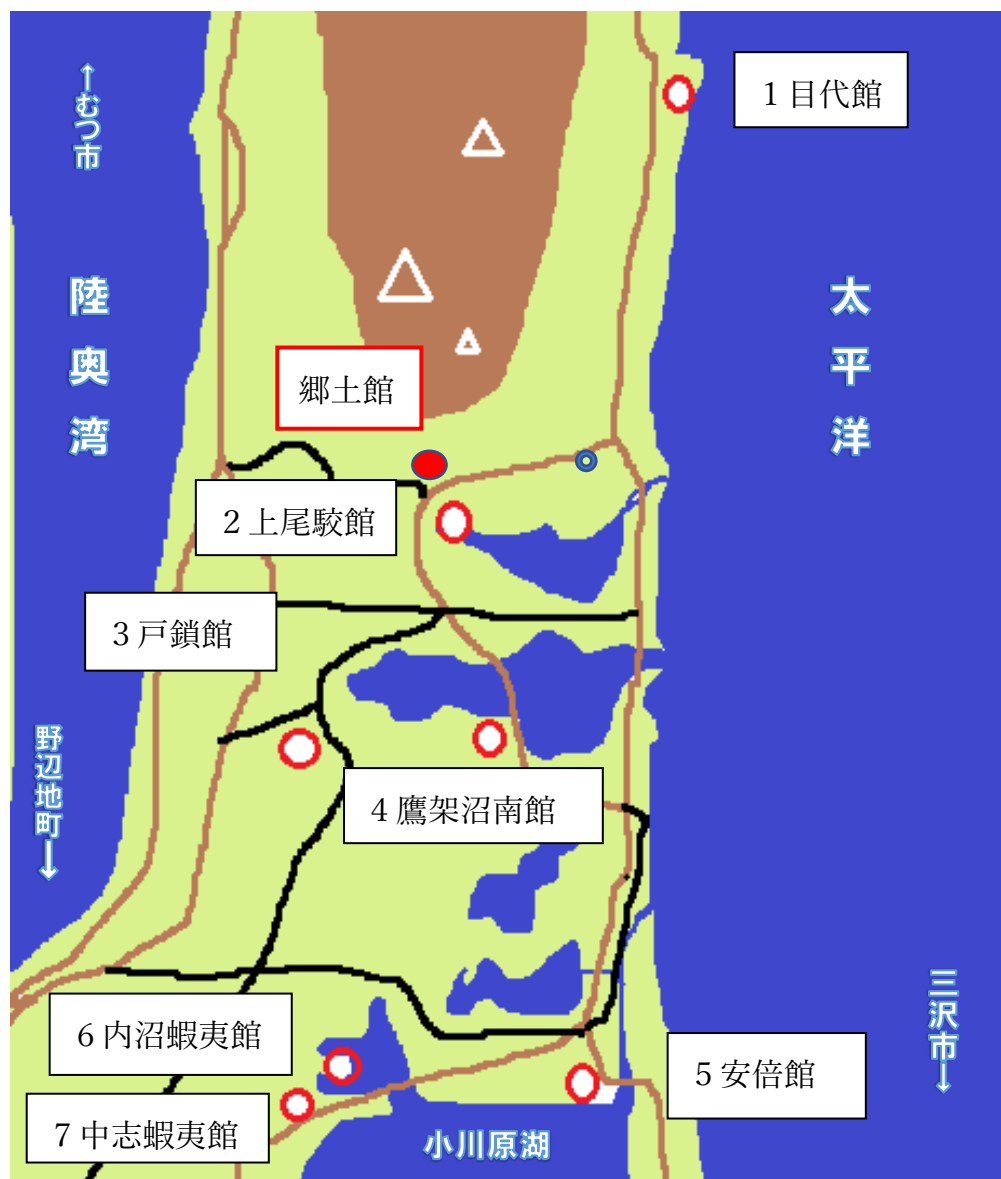
六ヶ所村の城郭は外見上気づかれない陰性が多く、河谷に臨んだ尾根や台地の末端を利用したものが多い。郭内外に住居用の堅穴があり、不意の敵の来襲に備えた防御のもので、防御性集落の特徴を示している。

その他に、方形の郭と堀を有する安倍館。主郭や副郭、堀切や堅堀、虎口や腰曲輪等を有し中世の城郭と考えられる目代館がある。

館の形態は次のとおりである。

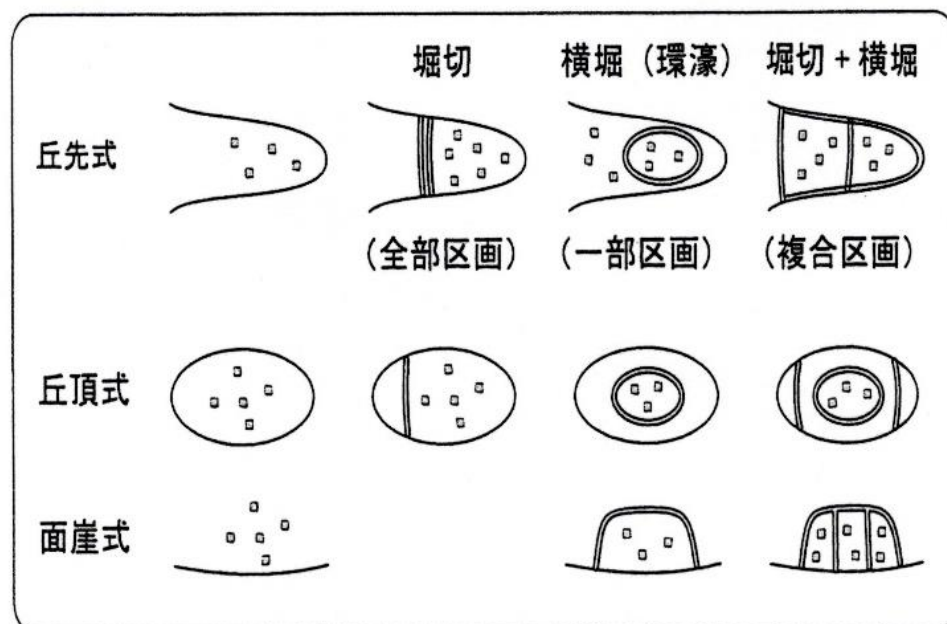
- 1 丘先式：目代館、戸鎖館、鷹架沼南館、内沼蝦夷館、中志蝦夷館
- 2 丘頂式：上尾駁館
- 3 面崖式：安倍館

六ヶ所村の7つの城館



防御性集落の形態模式図

青森県史 「飛鳥～平安」 P353 図Ⅲ-2-2-2-4 より掲載

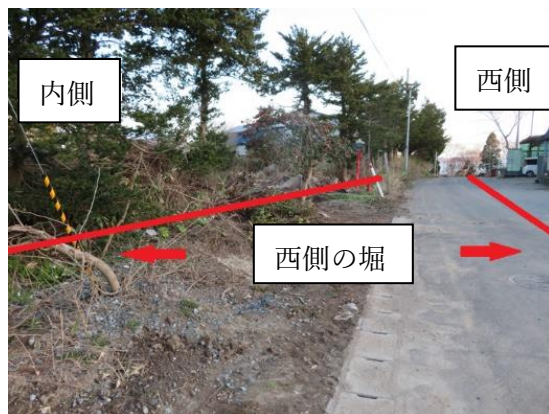
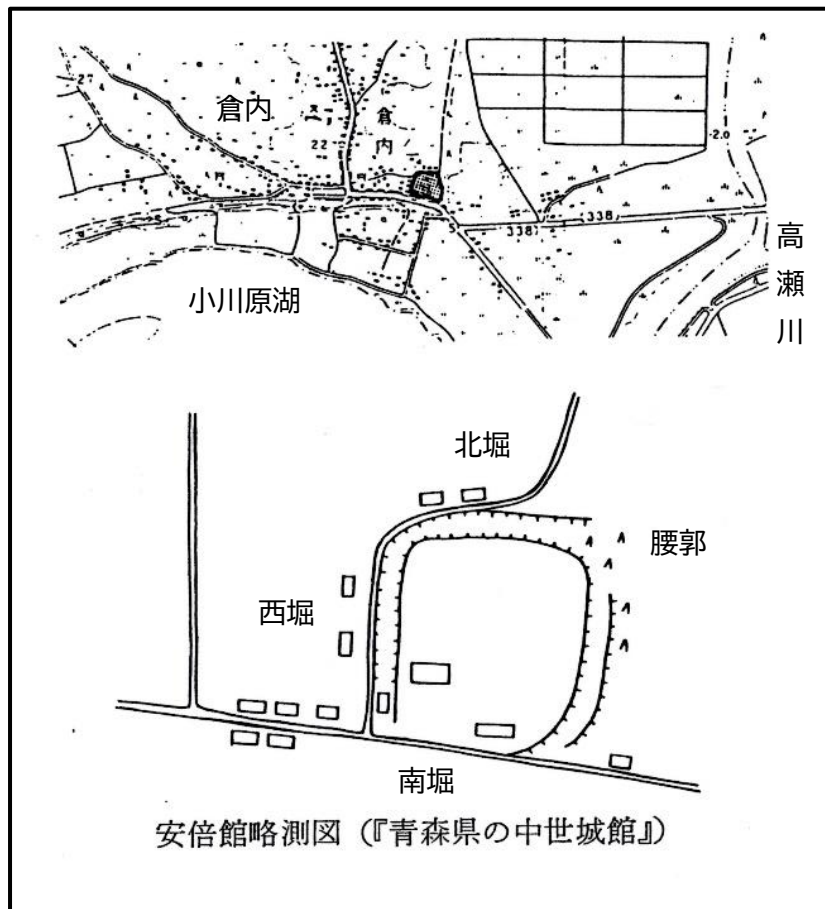


あ べ た て
安倍館

(別称:倉内の館)

11 世紀～中世？

六ヶ所村倉内字前谷地

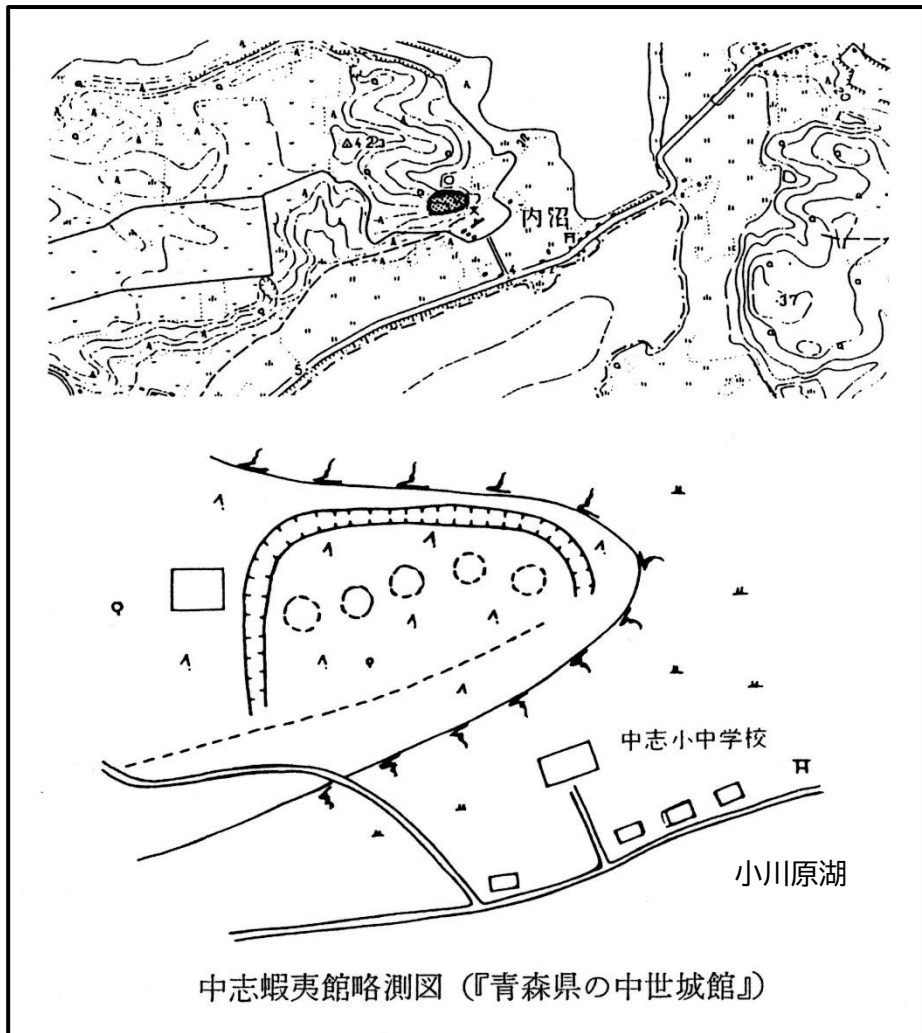


安倍館遠景及び西堀と北堀

※郷土館職員撮影

南堀から人骨と刀剣が出土！郭内に土師器の細片！安倍貞任の館か？

- (1) 位置：倉内集落東側に位置し、七鞍平丘陵南東端にある。
- (2) 郭：東西 100m、南北 70m の方形の一郭である。
- (3) 堀：東と南は自然の急崖で、幅 8～9m、深さ約 2m の方形状の空堀があった。北東部には腰郭がある。
- (4) 出土物：郭内に土師器が散布。郭の南側の堀から多くの人骨や刀剣などが出土。戦によるものなのか、飢餓などによる餓死者なのかもしれない。
- (5) 伝承：館主や時期などは不明。前九年の役 (1051 年～) の時、この館には安倍貞任がおり、南方の八幡館という所に八幡太郎義家がいて戦争をしたという伝説が残されている。そして、義家が放った矢が、この館まで飛んできたという。



中志蝦夷館遠景 ※郷土館職員撮影

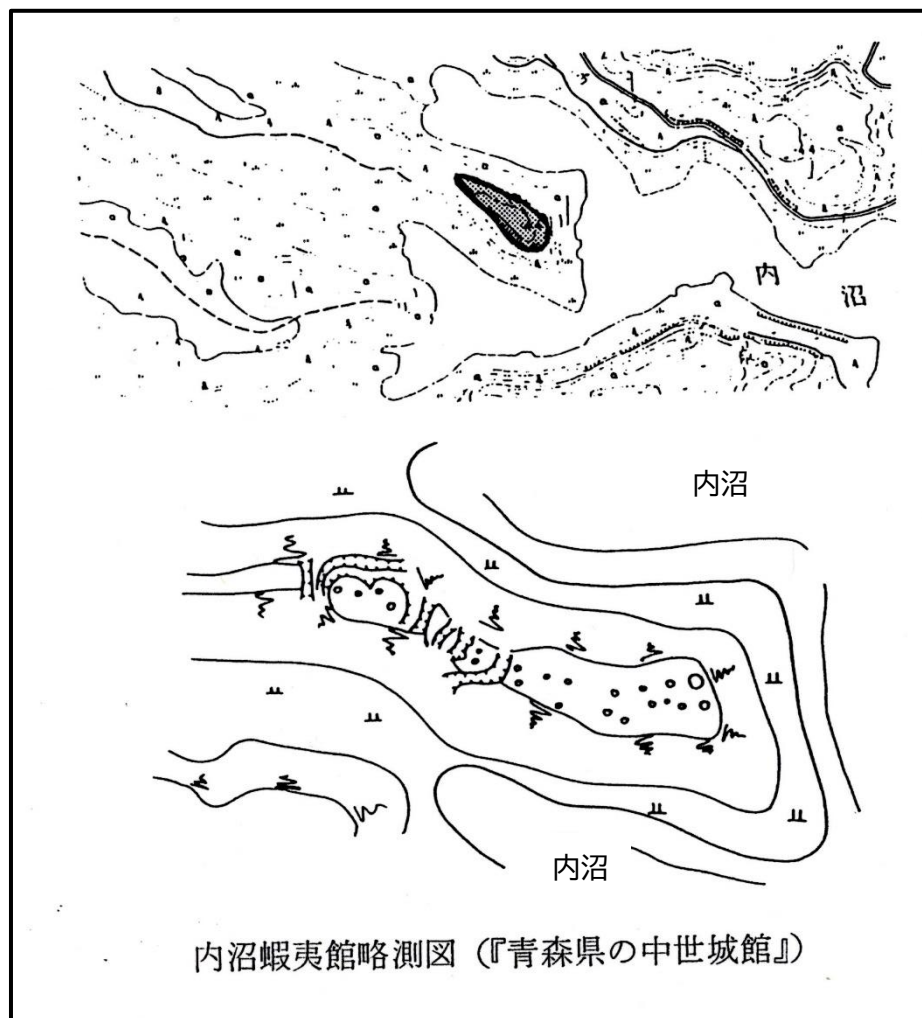
北・東・南が湖に面している堅固な館！小川原湖が一望できる！

- (1) 位置：小川原湖最北西岸、旧中志小中学校背後の丘陵先端部山林内に位置する。北・東・南側の三方は急崖であり、西方は地続きになっている。
- (2) 郭：地形に沿って楕円形で、東西約 60m、南北約 30m ある。
- (3) 住居跡：空堀に沿って直径 3～4m の住居跡とみられる落ち込みが 5 基確認される。周辺に数十基あり。土師器も採集。
- (4) 堀：幅 5～6m、深さ 1m くらい的一条の空堀があり、後方から切り離されている。
- (5) 概要：館主、築城時期とも不明。郭内にある竪穴を営んだ人々と同時期かどうか論の分かれるところだ。地形は高く、傾斜は急崖で、北・東・南が湖に面している堅固な館である。

内沼蝦夷館

10 世紀後半～11 世紀

六ヶ所村倉内字芋ヶ崎



内沼蝦夷館遠景 ※郷土館職員撮影

まさに自然の要塞！県内の古い館の中でも、5本の指に入る重要な館！

- (1) 位置：「高山」と呼ばれ、内沼に突き出た半島の先端に位置する。
東西約 400m、南北約 100m の長楕円形で、北・東・南側の三方は約 40m の急崖で、西方は大地に続く狭い尾根である。
- (2) 郭しゅかく：郭は 5 つあり、主郭は最も東側で東西が 200m ほどある。
- (3) 住居：主郭内には 23 基の竪穴住居跡、総計 50 基に達する。
- (4) 堀ほりきり：尾根を切るように数本の堀切があり郭くるわを 5 つに分けている。
郭の間は、一重ないし三重の空堀からぼりで仕切られ、防御が固い。
- (5) 概要：半島全体が一つの館になって、湖上に高く突き出たその姿は雄大であり、後方から攻撃されない限り難攻不落の館である。館主、沿革などは不明であるが、本県の古い館中でも、その雄大さにおいて 5 本の指に入る重要な館である。